

## 2019年第三四半期の自動車市場の動向

蔣 垂東 文教大学文学部教授

### 1. 2019年7～9月の自動車統計

#### 1.1 2019年7～9月自動車市場、低迷が続く

7～9月第三四半期は中国の自動車市場にとって刈入れ季節のはずだが、新車の販売台数はマイナス成長から抜け出さず、低迷が続いている。新車販売台数の前年割れは9月まで15カ月連続で続き、年間としては昨年に続き、2年連続のマイナスとなる可能性が濃厚である。表1は7～9月第三四半期の新車生産・販売台数の推移を示している。

表1 2019年7-9月の新車生産・販売台数

月	生産台数(万台)			販売台数(万台)		
	総数	内訳		総数	内訳	
		乗用車	事業用		乗用車	事業用
7	180.0 ▲5.0% ▲11.9%	152.3 ▲4.7% ▲11.7%	27.7 ▲6.4% ▲12.7%	180.8 ▲12.1% ▲4.3%	152.8 ▲11.6% ▲3.9%	28.1 ▲14.6% 6.4%
8	199.1 10.3% ▲0.5%	169.3 10.9% ▲0.7%	29.8 7.3% 0.9%	195.8 8.0% ▲6.9%	165.3 7.9% ▲7.7%	30.5 8.6% ▲2.8%
9	220.9 11.0% ▲6.2%	186.5 10.1% ▲7.9%	34.5 15.8% 4.0%	227.1 16.0% ▲5.2%	193.1 16.8% ▲6.3%	34.0 11.6% 1.9%
計	600.0 ▲6.2%	508.1 ▲6.9%	92.0 ▲2.5%	603.7 ▲0.6%	511.2 ▲6.2%	92.6 ▲2.2%
累計	1,814.9 ▲11.4%	1,507.5 ▲13.1%	307.4 ▲2.1%	1,837.1 ▲10.7%	1,524.9 ▲11.7%	312.2 ▲3.4%

\*比率の上段は前月対比、下段は前年同期対比の増減率

\*\*累計は1～9月の合計、以下同じ

表1が示すように、8月と9月の乗用車の新車生産・販売台数はともに前の月より二桁伸び、前年同期対比のマイナス幅を一桁台までに縮小させた。バス・トラック等の事業用車

は2カ月連続で前年同期を上回ったが、四半期統計では、どちらも前年割れの結果となった。1～9月の累計では、乗用車のマイナス幅が二桁となっているのに対し、事業用車は一桁の前半に止まっている。

表2が示すように、乗用車は、セダン、SUV、MPV、バンの四区分のほぼ全てにおいて二桁の大幅減となっている。

表2 2019年7-9月乗用車区分別販売台数増減率

月	総数	セダン	SUV	MPV	バン
7	▲15.3%	▲13.4%	▲16.2%	▲24.7%	▲9.8%
	▲12.8%	▲12.4%	▲11.1%	▲23.5%	▲16.5%
8	▲13.8%	▲12.4%	▲13.9%	▲23.3%	▲10.1%
	▲12.35	▲12.6%	▲10.0%	▲22.9%	▲2.0%
9	▲13.1	▲12.4%	▲12.4%	▲23.0%	▲10.1%
	▲11.7%	▲12.0%	▲9.3%	▲22.1%	▲15.1%

\*上段は生産台数、下段は販売台数の前年同期対比増減率

表3 2019年7-9月事業用車の車種別生産・販売台数(万台)

月	生産台数			販売台数		
	総数	内訳		総数	内訳	
		バス	トラック		バス	トラック
7	27.7 ▲12.7%	4.3 19.4%	23.5 ▲16.4%	28.1 ▲6.4%	3.8 15.2%	24.2 ▲9.0%
8	29.8 0.9%	3.6 ▲2.7%	26.1 0.8%	30.5 ▲2.8%	3.9 2.6	26.6 ▲2.9%
9	34.5 3.0%	3.8 ▲11.1%	30.7 5.1%	34.0 1.2%	3.8 ±0%	30.1 1.0%
計	92.0 ▲2.5%	11.7 0.9%	80.3 ▲4.2%	92.6 ▲2.2%	11.5 6.9%	80.9 ▲6.5%
累計	307.4 ▲2.1%	32.2 ▲5.2%	275.2 ▲1.8%	312.2 ▲3.4%	32.6 ▲2.0%	279.5 ▲3.5%

\*下段は前年同期対比増減率

表3が示すように、第三四半期の事業用車は、バスの販売台数が3カ月連続でプラス成長だったが、主力のトラックが前年同期を上回った月もあったものの、落ち込みが大きく、全体としてマイナス成長になった。但し、マイナス幅は軽微な水準となっている。

年初来から続く世界経済の減速、国内の経済構造調整、中米貿易摩擦の影響により、中国経済が下ぶれにあることは自動車市場が低迷する最大の要因となっている。経済成長の鈍化による消費意欲の低下、新エネルギー自動車への補助金の削減、一部地域における排ガス基準カテゴリ-6への繰り上がり実施なども低迷からの脱出にとって重い足かせとなった。

### 1.2 民族ブランド乗用車、全区分でシェア低下へ

表4が示すように、乗用車販売台数に占める民族ブランド車はセダン、SUV、MPV三区分の全てにおいて販売台数を大幅に減少させただけでなく、シェアも9月のMPVを除き軒並み低下した。

表4 7-9月民族ブランド車の販売台数(万台)とシェア(%)

月	総数		内訳					
			セダン		SUV		MPV	
	台数	シェア	台数	シェア	台数	シェア	台数	シェア
7	55.3 ▲13.3	36.2 ▲3.9p	13.5 ▲16.2	18.3 ▲1.4p	32.7 ▲10.6	48.6 ▲9.3p	5.9 ▲7.3	69.1 ▲1.8p
8	61.4 ▲10.2	37.2 ▲1.1p	14.3 ▲15.6	18.3 0.4p	37.3 ▲5.8	49.9 ▲3.9p	6.9 ▲21.0	70.4 ▲3.1p
9	72.7 ▲9.8	37.7 ▲1.5p	17.2 ▲13.2	18.5 ▲1.2p	42.9 ▲8.0	51.0 ▲2.6p	9.6 ▲10.5	75.4 2.3p
累計	590.3 ▲18.5	38.7 ▲3.3p	146.1 ▲15.2	19.7 ▲0.7p	342.2 ▲18.9	52.2 ▲6.2p	73.3 ▲23.9	74.7 ▲1.8p

\*下段は前年同期対比増減率。 \*\*累計は1~9月の数値

### 1.3 新エネルギー車もマイナス成長に転落

表5が示すように、自動車市場の不振が続く中、市場を支えてきた新エネルギー車は、第三四半期に大きく失速し、二桁の大幅減となった。中でもプラグイン式ハイブリット車の落ち込みが激しい。1~9月の累計で、純電気自動車が20%台の伸びを維持しているのに対し、プラグイン式ハイブリット車は前年割れの状態に陥っている。要因の一つに、燃料電池自動車の台頭が考えられる。今年3月より新しく統計対象となった燃料電池自動車の生産台数と販売台数は、表5に反映されておらず、9月末現在の延べの生産台数は1,315台、

販売台数は1,251台を記録、前年同期対比でそれぞれ7.7倍と7.6倍急拡大している。

表5 2019年7-9月新エネルギー車の生産・販売台数(万台)

月	生産台数			販売台数		
	総数	内訳		総数	内訳	
		電気*	HBD**		電気	HBD
7	8.4 ▲6.9%	6.5 ▲4.8%	2.0 ▲13.2%	8.0 ▲18.1%	6.1 1.6%	1.9 ▲20.6%
8	8.7 ▲12.1	7.4 ▲49.8%	1.4 ▲4.2%	8.5 ▲15.8	6.9 ▲6.0%	1.6 ▲41.3%
9	8.9 ▲29.9%	7.4 ▲26.1%	1.5 ▲44.1%	8.0 ▲34.2%	6.3 ▲33.1%	1.7 ▲38.4%
計	26.0 ▲17.7%	21.3 ▲11.3%	4.9 ▲36.4%	24.5 ▲19.9%	19.3 ▲15.0%	5.2 ▲34.2%
累計	88.8 20.9%	71.7 29.2%	17.0 ▲5.4%	87.2 20.8%	69.2 27.8%	17.9 ▲0.8%

\*純電気自動車 \*\*プラグイン式ハイブリット車

### 1.4 7-9月の事業用自動車輸出、前年割れ続く

表6が示すように、7~9月の輸出は、乗用車・事業用車とともに前年を下回ったが、1~9月累計では、上半期で15.5%の伸びを記録した事業用車はプラス成長となっている。

表6 2019年7-9月自動車の輸出台数(万台)

月	総数		内訳			
	台数	対比	乗用車		事業用車	
			台数	対比	台数	対比
7	8.1	▲14.0%	6.0	▲12.9%	2.1	▲17.0%
8	8.9	▲0.6%	6.6	0.7%	2.3	▲4.1%
9	9.0	6.3%	6.6	13.2%	2.4	▲8.9%
計	26.0	▲2.6%	19.2	▲0.5%	6.8	▲9.3%
累計	74.8	▲8.1%	52.0	▲13.4%	22.7	6.8%

### 1.5 7-9月のオートバイ市場、急回復を見せる

7~9月のオートバイ市場は、表7が示すように、3カ月連続で大幅に拡大し、四半期統計では各項目とも20%に近いそれ以上の高い伸びを見せている。1~9月の累計では、上半期の前年割れを取り戻し、一桁ながらプラス成長となった。

輸出でも、表8が示すように、第三四半期はプラス成長だったが、1~9月の累計では、上半期の落ち込が響いて、前年

同期を下回る結果となった。

台数が総販売台数の11.0%を占めて、成長の柱となっている。

表7 2019年7-9月オートバイの生産・販売台数(万台)

月	生産台数			販売台数		
	総数	内訳		総数	内訳	
		二輪車	三輪車		二輪車	三輪車
7	142.8 10.3%	127.2 8.2%	15.6 32.0%	143.2 9.7%	127.7 8.0%	15.5 26.9%
8	155.8 27.2%	139.2 26.6%	16.5 31.8%	151.3 23.1%	134.6 22.4%	16.7 29.4%
9	163.3 27.8%	146.0 26.0%	17.3 44.8%	165.9 29.4%	148.6 18.2%	17.3 39.9%
計	461.9 21.7%	457.4 33.2%	49.4 37.2%	460.4 23.4%	410.9 19.4%	49.8 33.9%
累計	1,251.3 5.7%	—	—	1,245.7 5.0%	—	—

\*下段は前年同期対比増減率

表8 2019年7-9月オートバイの輸出台数(万台)

月	総数		内訳			
	台数	対比	二輪車		三輪車	
			台数	対比	台数	対比
7	61.4	▲1.2%	58.5	▲2.0%	2.9	18.2%
8	57.0	▲0.2%	53.9	▲1.4%	3.1	25.8%
9	60.6	1.7%	57.8	1.2%	2.8	15.4%
計	179.0	0.1%	170.2	▲0.8%	8.8	18.9%
累計	524.0	▲6.8%	—	—	—	—

出典：中国自動車工業協会統計サイト

- (1) <http://www.auto-stats.org.cn/ReadArticle.asp?NewsID=10600>
- (2) <http://www.auto-stats.org.cn/ReadArticle.asp?NewsID=10617>
- (3) <http://www.auto-stats.org.cn/ReadArticle.asp?NewsID=10637>

## 2. ショベルカー販売台数、史上最高水準を更新

自動車市場の低迷をよそに、土木事業などに使用される掘削用車両であるショベルカーの需要は好調に推移している。

今年1~10月のショベルカー販売台数は196,222台に達し、前年同期に比べ14.4%伸びて、同じ時期の史上最高水準となった。表9が示すように、国内市場での販売台数は12.1%増の174,680台で、輸出は37.8%増の21,542台となり、輸出

表9 2019年1-10月ショベルカーの販売台数

	総数	内訳	
		国内市場	輸出
台数	196,222	174,680	1,542
伸び率	14.4%	12.1%	37.8%

\*中国工程机械工业协会ショベルカー部会統計

今年10月の国内市場でのショベルカーの販売台数は4カ月連続で二桁の伸びを維持し、月間販売台数は26カ月連続で1万台を超え、1~10月の累計ではすでに昨年の年間販売台数を上回った。また、表10が示すように、国内市場では、需要が最も高いのは6~20トンクラスの小型ショベルカーである。

表10 1-10月国内市場ショベルカークラス別需要台数

	超小型 (6T)	小型 (6-20T)	中型 (20-30T)	大型 (30T以上)
台数	31,134	64,489	41,250	22,937
シェア	19.5%	40.4%	25.8%	14.4%

中国には35社のショベルカーメーカーがあり、1~10月の販売台数上位10社の合計は149,506台に達し、全体の85.6%を占めている。トップ3は三一重工、徐州工程、キャタピラーで、3社とも10%以上のシェアを有し、1位の三一重工は43,450台で24.9%、2位の徐州工程は25,375台で14.5%を誇っている。旺盛な需要に支えられ、三一重工の業績は好調に推移し、今年第一~三四半期の営業収入は586.91億元(1元=約17円、以下同じ)に達し、前年同期対比で42.88%伸び、主力の掘削機械部門の純利益は91.59億元を記録、87.56%伸びて大きく膨らんでいる。

なお、1~10月のブランド別シェアでは、国産は63.1%、韓国系は11.1%、日系は12.9%となり、国産ブランドが勢力を伸ばしている。

出典：中国工程机械工业协会 HP

<http://info.cnema.org/2019/11/09210366763.shtml>